

# 秋の収穫が楽しみ

札幌ライラックデイケアで田植え

豊平区・札幌ライラック下村晴信院長・百六十七ク病院(志田一彦理事長)床のデイケア利用者が、

田んぼに見立てたバケツを使い稲の苗植えを行った。

踏を踏んで楽しめる稲作に着目。園芸療法士資格を持つ看護師の準備と、稲作経験のある地元町内会長の協力を得て実現した。

# 外患者

## 度状況を集計

道がんセンター

件、家族七百二十九件、医療関係者三百七十七件、患者の友人二十九件、その他四百五十四件)のうち、他医療機関患者の相談が千七百四十件と六割を占めた。

連携点病院の住民周知が進めば、他医療機関患者の相談は減ると見ており、道がん診療連携協議会を通じ拠点病院における相談対応のレベルアップを図る考えた。

相談内容は、セカンドオピニオン、受診方法、転院、検査などの一医療

DMAT緊急  
重可(ア、ハ、イ)

チーム(DMAT)の緊急車両などを公開したII

入院時医学管理  
DMAT(ア、ハ、イ)



田んぼに見立てたバケツに苗植え

「利用者に継続して関心を持ってもらえる企画」として、収穫まで段階

が病院脇に集まって、バケツへの土盛り、水張りといった過程を含めて経験。「ほしのゆめ」の苗一本一本に愛情を込めて植え付けていった。

肥料散布や害虫駆除に参加してもらいながら、秋にはもみすりや精米体験の収穫祭を企画。年末には稲わらを使った「しめ縄づくり」イベントも考えているという。